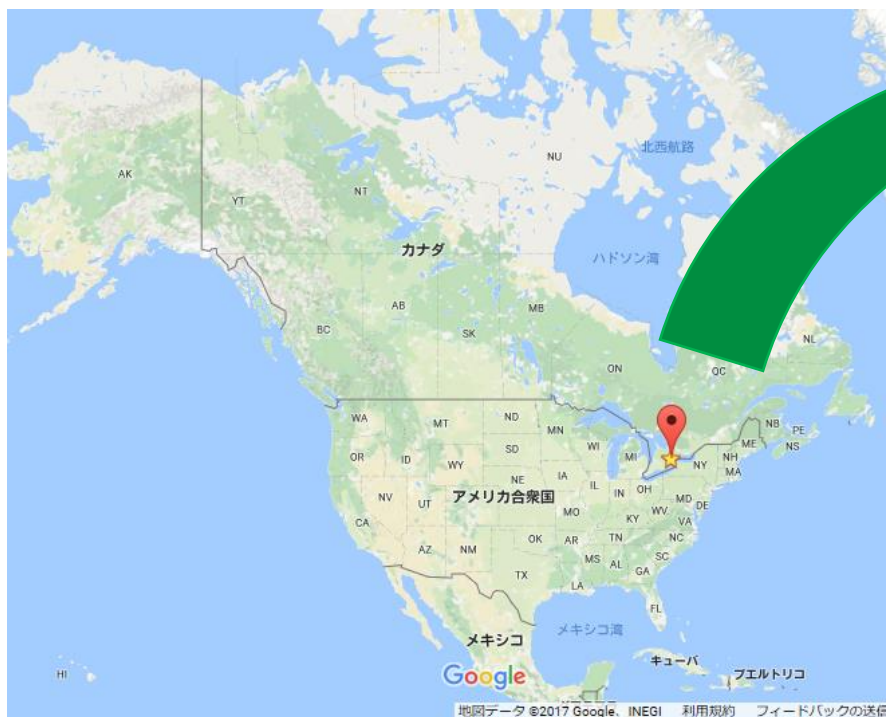


カナダAddiction研修
行き先：カナダ＝トロント
2017年2月20日～2月26日

佐瀬 満雄（看護学コース4年）

渡航先での活動内容

カナダ＝トロント



Sistering

薬物依存やホームレスの女性への支援団体。食事の提供やより害の少ない薬物の推奨などを行っている。



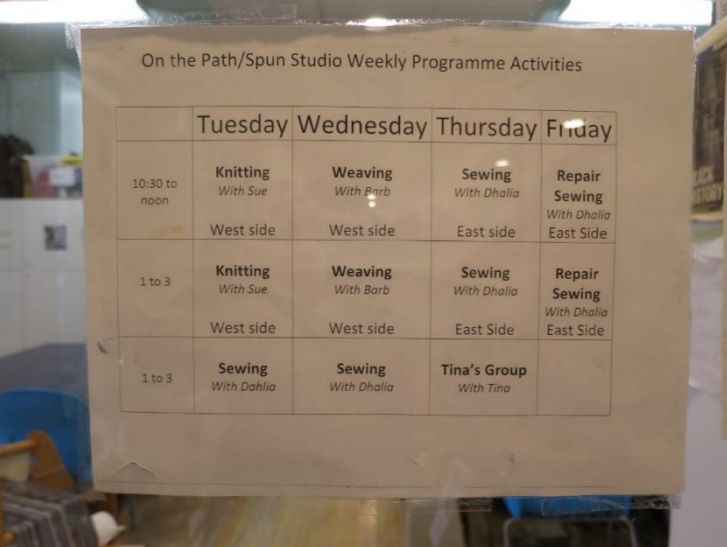
薬物使用キット



Sisteringの外観（赤枠）



誰でも・いくつでも
キットを持って行ける



縫物・編み物などの
プログラム



注射キットの中身



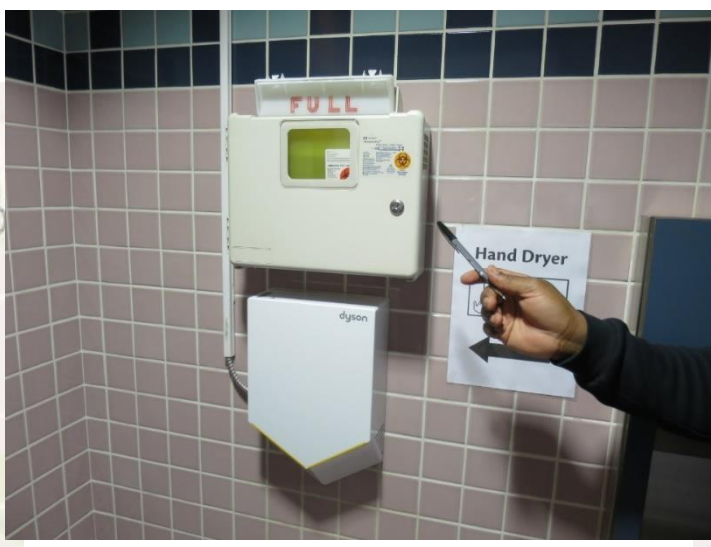
プログラムなどを
行う部屋

Unison Health and Community Services

地域保健施設。薬物依存者のための外来、drop-in、ピアワーカーによるアウトリーチ、HIV検査の受け入れなども行っている。



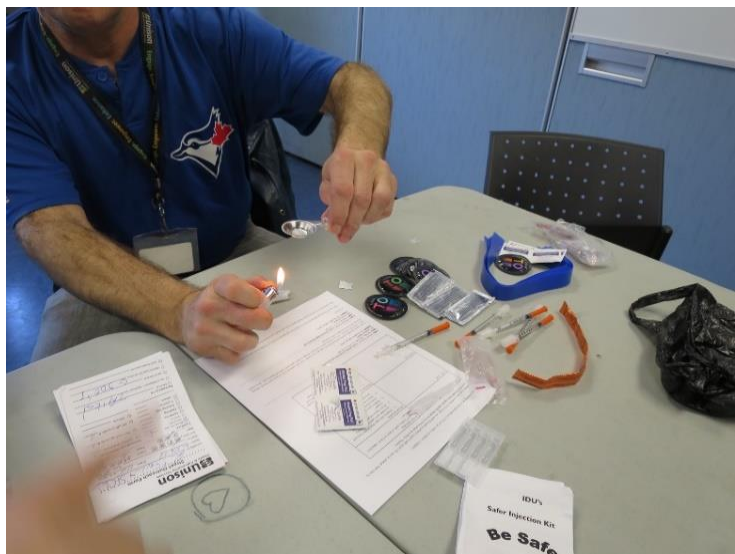
施設概観



トイレ内の注射器
回収ボックス



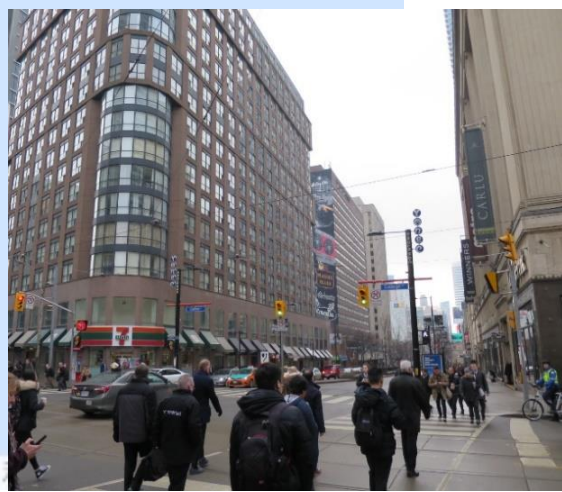
薬物使用キットの在庫



ピアワーカーによる実演



滞在ホテル周辺の街並み



CAMH(Centre for Addiction and Mental Health)

精神科外来・入院、薬物に関する研究、教育、政策提言などを行う複合施設。



CAMH専用タクシー



Queen Street Site



患者を使役することで
つくられた壁



Russel Street Site



閉鎖病棟入口



閉鎖病棟食堂



遠隔地の患者の
ための電話外来

目的を達成できたか

カナダにおけるハームリダクション実践と大麻合法化政策に関して、講義やディスカッションを通して理解を深めるという本研修の目的は達成できた。

グローバルな視点とは何か

日本においても個人間・集団間で価値観の違いはあるが、国家間でもやはり異なる価値観があること。また、その中でも人それぞれ様々な価値観があること。
ハームリダクション政策を採用しているカナダでも、当事者や支援者に対する地域住民のスティグマが存在することなど。

将来の進路決定へどう影響したか

大学院進学後も薬物依存に関する研究を続けたいと考えているが、カナダの薬物依存者支援の実践や日本には無いハームリダクション政策を見聞き視野が広がった。

目的以外に学んだ点、反省点

カナダの薬物依存者の支援に携わる支援者に実際に話を聞くことで、何をしているかだけでなく、どのような思いで支援を行っているのかに触れることができた。

後輩へのアドバイス

カナダ人は誕生日やクリスマスなどのイベントに時にしかプレゼントを渡さないらしくて、お土産という文化が無いみたい。お土産を持って行くと喜んでくれるけど、不思議な感じがするらしいよ。
事前の連絡では施設内見学の許可がもらえなくても、実際に行くと見学させてもらえることがあるよ。

研修支援制度に望むこと

海外研修支援制度の渡航費補助制度なしには今回のカナダAddiction研修は成立しなかったもので、今後も学科生への支援を続けてほしい。